

海野 「環境問題の社会的ジレンマ」 への質問・コメントと回答	
I. 理解・納得の先に進みましょう。	
他の人が言ったことを理解し納得することは、とても大事なことです。しかし、それと同時に、そこから先の疑問や課題を創り出すことが重要です。これは、学生や研究者だけに要求されることではありません。どのような職業であろうと、必要とされる能力です。	
コメント	環境問題についての話を理解することができました。
回答	ありがとうございます。ただ、問題が解決し尽くしたわけではありません。それぞれの立場で考えてください。
コメント	事前資料を読んだときは、正直よくわからなかったが、話をきいたらとても納得した。「面倒だから」「自分1人がやったって…」とまさに自分が感じていたことだった。
回答	それは嬉しいですが、納得できないことはありませんでしたか。
コメント	環境問題を社会的要因から見ることは今までに少なく、面白かった。今までしなかった視点から環境問題を考えることができました。
回答	農学部に関連した問題でも、社会的ジレンマの事例はあります。過剰生産、乱獲、その他、いろいろ。考え続けてください。
コメント	人々の環境問題の意識の高さが行動に結びつくようなきっかけが必要だと思いました。
回答	そのとうり。では、具体的にどうするか。考えてみませんか。
コメント	環境問題に関する、今までにない視点で新鮮でした。
回答	世の中は知らない・分からないことだらけです（60歳をとうに過ぎた私にも）。アンテナの感度を高く持ち続けましょう。
コメント	環境問題という理科的問題を社会科学の視点から説明して下さい、新しい視点に気がきました。
回答	「文系-理系」という二分法的思考から解放されましょう。
コメント	「環境問題といいつつ、毎日の自分の生活はどうなのか」という話は、その通りだなと思いました。「自分がやるには面倒だから、それより欲を追求した方が得」と思うのは変じゃないので。個人が、そして集団が、環境問題を含む、良い事をするのは大変なんだということが分析されてて、わかりやすかったし良かったです。
回答	理解してくれたのは嬉しく思います。ただ、そこで終わるのではなく、思考を展開するとさらに良いでしょう。私の話に納得できない点があるかもしれません。別の実例を考え付くかもしれません。いろいろな展開が有りえます。
コメント	すごく納得できる内容だった。
回答	でも、その先もあります。一緒に考えましょう。
コメント	全員の配慮が必要なんだと思いました。
回答	では、そう考える君は、どう考えを進め、どう行動しますか。
コメント	地球温暖化の深刻さが分かった。
回答	でも、そこで停まるわけにはいきません。
コメント	環境配慮行動をしない理由として「ちょっとやそつとで環境は変化しないだろう」「自分が生きている間に環境がすごく悪くなることはないだろう」といったこともあると思った。
回答	そうですね。でも、そこで停まって何もしなかったら将来に禍根を残す、というのが現代の認識なのです。
コメント	環境配慮をしないといけないのは、わかっているけど、多くの人は自分たちの損得勘定で環境配慮をできていないのは、本当のことだと思った。
回答	そこからどうするか、君自身にも問いが投げかけられています。
質問	配慮行動をしないのには、環境に配慮した行動とは何かを分かっていないから、ということもありませんか？
回答	確かに、それも理由の一つです。たとえば、仙台市のごみ出しルールでは、プラスチック製容器包装について「中身は使い切って、汚れは古布などでふくか、ため水などで軽くすすいでください。汚れているものはリサイクルできません。」と書いてありますが、リサイクル可能と不可能を分ける汚れの程度は判然としません。
質問	脱スパイク運動は、それによる損害が少なかったから成功した。なら今、環境に影響を与えるようなことの中で、改革を成功できそうな事があるかと言われればいまち思い浮かばない。
回答	現代社会の中で、いろいろな試みがなされています。当然のことながら、「今の自分に思い浮かばない」ということは、「存在しない」「存在しえない」ことを意味するわけではありません。
質問	統計数理研究所出典の「国民性調査」によると1971年頃に「自然に従え」と考える人が急増し、「自然を征服」と考える人が激減し、それまでと順位が逆転した。これは何か契機があったのか。
回答	同じような問いが前にもありましたので、そこを見てください。さらに、その頃がどのような時代だったのかを年表などで確認すると良いでしょう。

II. 質問する前に、まずは調べ/考えましょう。	
他の人に質問したり、他の人と議論したりすることは、とても大事なことです。でも、分からないことがあったら、まずは自分で調べたり考えたりしましょう。それは、たいてい、誰かが既にどこかで言ったり書いたりしていることでしょう。でも、そうであったなら、それは君に調べる能力や考える能力がある証拠です。励みになりますね。	
質問	ジレンマの話聞いて全くそのとおりだと思った。確かに1人1人の意識も大事だが、団体でほぼ強制的な制度をとらないと何も変わらないのでは。ジレンマを打開するために先生が考えていることは何かあるか。
回答	これは、一般的・全般的な問いなので、一言では言い表せません。山岸俊男『社会的ジレンマ』(PHP新書,2000)、藤井聡『社会的ジレンマの処方箋』(ナカニシヤ出版,2003)、盛山和夫・海野道郎『秩序問題と社会的ジレンマ』(ハーベスト社,1991)などを参照してください。
質問	人々の意識が必ずしも行動につながっていないことが分かった。人々の意識を行動に変えるのにどのようにモチベーション付けをしたらいいのか。
回答	これについても、上掲の書物を見てください。ただ、研究は現在も続いています。
コメント	難しい問題ですね。話すといろいろな意見がでそうですね。
回答	そのとおりです。一緒に考えませんか。
質問	環境配慮行動を個人が意識していく方法を具体的に教えてください。
回答	君はどう考えますか。まずは、これまでの知識や経験を踏まえて考えてみましょう。その後で、たとえば、盛山和夫・海野道郎編『秩序問題と社会的ジレンマ』(ハーベスト社,1991年)を読んだ上で、さらに考えたり、他の人と議論してみましよう。
質問	今から出来る環境配慮行動を教えてください。
回答	他人に教えてもらう前に、まず、自分で考えましよう。その後で、自治体や環境省のパンフレットや上述の書物などを見て、さらに考えましよう。
コメント	社会学の点から人間の行動と環境との関係について知ることができた。このような観点から環境問題について考えることはあまりなかったのも良かった。
回答	これからも、「農学」以外の分野にも目を向けましよう。現実の社会問題の解決は、いろいろな分野の入会によって生まれることが多いのです。
コメント	「自然と人間との関係」に対する態度ですが、私なら②自然を利用する、を選びます。成果が目に見える、という点は非常に重要であると思います。社会的ジレンマは難しい問題だと思いました。
コメント	(「②自然を利用する」について) 自然をしいたげるような姿勢では必ず痛い目に合うでしょうが、服従しっぱなしも良くありません。上手く自然を利用すれば環境に良い形で発展できるはずですよ。
回答	どのように利用するのが上手い利用法なのか、それが問題です。
質問	「環境意識が高いのに行動をしない」という話がありましたが、個人1人ひとりが実行できるようにするためには、現実的にどのようなことが必要なのでしょうか？
回答	まずは自分で考え、その後、前に紹介したような本を読んで、その上で、さらに考えてみましょう。
コメント	最後のスパイクタイヤ問題が興味深かった。社会的ジレンマを乗り越えて人々が環境配慮行動をするような世の中にするのは難しいと感じた。
回答	難しいですが、この問題を解決しない限り、社会を存続させることはできないのです。
III. 「自然と人間との関係」(統計数理研究所「国民性調査」)について	
この調査は、1953年から5年ごとに実施している、日本が世界に誇る調査の一つです。「自然と人間との関係」についてのこの項目は、この調査で、意識の時代的変化が鮮やかに現れた項目の一つです。ここから、「現時点で当然と思っている考え方が、必ずしも常に当然な考えである訳ではない」ということに気づきましよう。	
コメント	私自身が「自然に従え」という考えをもちながら環境に配慮しない、という人間で、自分の事だ、と身にしみて感じました。
回答	基本的には、皆、そうなのです。それを前提にして、社会的制御を考えます。
質問	「環境の保護が重要かどうか」と聞かれれば、よほどの思想がない限り「重要である」と答えるのは(マスコミ等が盛んに喧伝していることもあり)当然といってもよいと思う。それを「環境意識が高い」とレッテルを張るのは疑問が残る。
回答	そのようになったこと自体が、時代の大きな変化なのです。普通の人があるように答えること自体が重要なのです。前回のオリンピック(1964年)当時、「環境が重要だ」と唱えるのはごく一部の人で、時に反体制的思想の持ち主だと考えられていたのです。
コメント	ひとりひとりが意識高くあることが大切だと思った。
回答	そうなのですが、それだけでは問題は解決しません。どうしたらよいと思いますか。
コメント	国民性調査において、少しだとしても環境の保護に関心がない人がいることに驚きました。目先の利益を欲するのは人間の本能だと思うのでこの社会的ジレンマの問題は、根深く、解決が難しいと思いました。
回答	そうですね。しかし、解決が難しいからこそ、挑戦し甲斐があります。

コメント	個人的に講義をとっているので説明がよくわかったが「効用」は「満足度」に直した方が良いと思った。
回答	あなたは、「効用」と「満足度」をどのように区別しているのですか。その上で、「満足度」の方が良いと思う理由は何ですか。
コメント	環境に悪いことをしないと快適に暮らせない。矛盾を感じました。
回答	矛盾を感じたあなたは、そのように考え、どのように行動しますか。
IV. 社会的ジレンマのメカニズムについて	
まだまだ分からないことがあります。調査、実験、数理分析など、さまざまな方法によって研究が進められています。	
コメント	環境行動と個人的な得のジレンマに興味を持った。教育との関係も気になった。
回答	環境配慮行動に家庭教育や学校教育がどのように影響するかについての研究も行なわれています。
コメント	コンビニの営業時間など具体例が分かりやすかった。
回答	具体的な例の分析と抽象的理論との往復が、多くの学問では重要です。
コメント	確かに環境問題に配慮した行動をしても、自分の身近ではメリットを感じられないと思った。
回答	では、君はどう考え、どう行動しますか。
コメント	環境問題においては、自分がやることによるもたらした悪い影響が、はっきり目に見える物ではなくて、自分がやっても、やらなくても結果が変わらないと考えている人が多いです。
回答	そのとおりです。それが出発点になります。
コメント	環境問題を意識した行動をしない理由のところにあがっていた言い訳が自分にもあてはまることが多くて反省しました。
回答	あなただけでなく、多くの（ほとんどの）人がそうなのです。「立派な」人ではなく「普通の」人を前提にして、社会的制御の方法を考えます。
コメント	確かに環境配慮行動を意識しようと思っても、自分への有効性を優先してしまうと思った。
回答	そこが出発点です。一つ上にも書いた通りです。
コメント	エコを実際に実践することは難しい。損得の感情が働いてしまう。
回答	その通りだね。その事実を出発点にして、社会的制御を考えるのです。
コメント	公共交通利用は時間コストがかかる、ということは高校の頃電車通学をしていたのでよく分かる。このようなコストがかかるのに環境配慮行動をすることは、なかなか難しそうだった。
回答	そうですね。でも、難しくても考えなければならないのです。
コメント	環境意識が高いのに環境配慮行動をしていない理由として自分が行動をとっても結果は変わらないと思ってしまっ、行動をとらないことが社会ジレンマとなることにとても共感した。
回答	共感し納得した後で、「さて、どうするか」、それが重要だね。
質問	一人ができることには限界があるが（例えば私はアパート住まいだから生ゴミの肥料をつくりそれを使うというエコ行動はできない）どこまですればいいのか。
回答	可能な行動を実行すること、不可能な行動があれば制約条件が何かを考え、社会的に解決可能なら行政に訴えることなどが考えられます。なお、アパートやマンションでも「電動生ゴミ処理機」を用いて堆肥を作りベランダ園芸など使用することもできます。
質問	環境を良くする行動は今の皆にとって便利な先進国としてあるべき姿とはうまく相容れないが社会は発展したのから環境と共に暮らす里山のような生活に可逆するのかが。
回答	どのような社会を目指すのか、それはわれわれが決めることです。また、全ての人が同じライフスタイルである必要もないでしょう。必ずしも「里山」でなく、(エネルギー、廃棄物などの)自己完結型地域社会をつくる試みも、各所で行われています。
コメント	環境意識が高くても行動できない気持ちはよく分かります。
回答	よく分かったのは良いのですが、では、君はどうしますか。
コメント	私もつめかえ品の利用など簡単に行えて、なおかつ自分にもメリットがある（つめかえ品のほうが安価）環境配慮行動は行いが、生ごみの堆肥化など手間がかかり、難しいものは行わない。その理由が客観的に理解できて納得できた。
質問	社会的ジレンマの個人的制御の部分で、1)の対面相互作用だけ、ということなのか分からなかったです。具体的にはどのようなことなのでしょう。
回答	個人的制御の方法については、先ずは自分で考えた後、前の方で挙げた盛山和夫・海野道郎編『秩序問題と社会的ジレンマ』（ハーベスト社、1991）を見てください。
コメント	社会的ジレンマという言葉を知った。環境配慮行動をしない理由が、自分にもあてはまるものがあって、痛い所をつかれた気がした。また、スパイクタイヤというものがあつたということを知った。
回答	あなたの周りにも社会的ジレンマがあるのではないのでしょうか。探してみましよう。

質問	環境配慮行動が逆に経済効果を生むケースは存在するのでしょうか。
回答	それはいろいろ存在するでしょう。たとえば、エネルギー効率の悪い古いエアコンを買い替えるのは環境配慮行動といえるでしょう。それは、エアコンの製造・販売に関する営業活動にプラスの効果をもたらすでしょう。
V. 社会的ジレンマの解決（制御）について	
社会的ジレンマは、定義からみても解決困難な課題です。しかし、実際の社会の中では、さまざまな試みがなされています。皆さんも、各自、具体的な行動を考え、実行し、経過と結果を私に報告してください。報告すべきは、成功例に限りません。むしろ、失敗例から学ぶことが多いのです。よろしくお願いします。(uminoyj@yahoo.co.jp)	
コメント	現代の環境問題は人々の日常行動に起因し、人々は自分中心のことを考え、環境配慮行動をしないとのことだったが、実際自分に利益がなければ手間がかかる行為をする人は少ないと思う。環境問題を解決するために、環境配慮行動を行えば何かしら個人的に利益が得られるという仕組みをつくるのが手っ取り早く各人の環境配慮への意識を高められる方法かもしれないと考えた。
回答	「個人的に利益が得られる仕組みをつくる」ことは、対策の一つの方法です。しかし、それが「各人の環境配慮への意識を高められる」かは、直ちには言えません。個人的利益のためだけに行動だけが変化した可能性もあるからです。切っ掛けは個人的利益であっても、行動が習慣化したり、内発的なものにするための工夫が必要です。
コメント	スパイクタイヤ問題により、ジレンマを理解しやすかった。しかし、そのような個人のものに対し、火力発電などでは認識が弱く、構造を変えていくのは難しいと思った。
回答	たしかに、そのような側面（「可視性」と言います）から見ればそのように言えますが、他方で、（日本国内に限っても）1億人の個人の行動を制御するのと、数は少なく法的な規制（環境基準など）で制御できるものでは、後者の方が制御しやすいという側面もあります。スパイクタイヤ問題でも、最終的には、法によって製造・販売を禁止したのです。
コメント	社会的ジレンマは自分が生活していく中でよく分かった。強い意思をもつことが必要であると感じた。
回答	一面、それではありますが、それだけでは解決しないのが「社会的ジレンマ」なのです。
コメント	環境に配慮することはプラスイメージであるので、企業のように大きなお金のあるところがプラスイメージの売りつけのために配慮すればよいと思った。貧乏人にも優しい環境配慮行動ができたらいいのに。
回答	環境に配慮することがプラスイメージになった、ということ自体が、時代の大きな変化なのです。その中で「貧乏人にも優しい環境配慮行動」を考えるのは、これからの課題です。
コメント	利益がなければ自分から環境を考えた行動はとらないと思いました。
回答	そうなのですが、そこで停まるわけにはいきません。君ならどうしますか。
質問	個人が環境問題に貢献できたと思うことができ、省エネに対してのモチベーションが下がらない環境に対してできることはあるのか。
質問	スパイクタイヤのように環境に悪い行為は条例や法律がないと停止しないのかどうか気になる。
回答	似たような意見が前にもありましたが、まずは、他人に聞く前に自分で考えましょう。前の類似の質問に対する回答も参照してください。
質問	地球温暖化に対する行動はパワーポイントでいうとP10の手間がかかる悪い環境だが、それを手間がかかるけど良い環境にできないのか。
回答	出来ると良いですね。技術革新によって可能になるかもしれません。それは、（コスト的に実現可能かも含めて）工学の課題ですね。
質問	自然を利用、自然に従え、自然を征服とは、具体的にどういうことでしょうか？
回答	これは、個別面接調査の質問です。回答者からそのような質問が出たときには調査員は「ご自分のお考えに従ってお答えください」と返事します。選択肢をどのように理解するかは、回答者に任されているのです。
コメント	社会的ジレンマが個人的な問題に変換したときには、環境はかなり手遅れな状態になっているのではないかと思います。他の3つの観点から解決に向かうべきだと思いました。
回答	そういう面は、確かにあるでしょう。しかし、実際に個人に影響が出る前に、個人に生じうる影響について考えることも、人間が持っている能力です。
コメント	環境配慮行動をしない理由がまさに自分に当てはまった。今回のことをきっかけに、積極的に取り組んでいこうと思った。
回答	それは素晴らしいね。何か問題にぶち当たったら、そこで考えましょう。良いアイデアがあったら教えてください。
質問	興味深い講義ありがとうございました。「社会的ジレンマ」問題を「個人的」問題へ変換する（社会的ジレンマを解決する）には一般にどのような取り組みが必要と思われますか。
回答	それこそが研究課題です。問題の性質によって、いろいろな違いがあるでしょう。

質問	社会のジレンマと地球温暖化を関連させているが、地球温暖化によって利益を手にする国もあると聞いたことがある。
回答	それはありうるでしょう。しかし、この問題における行動主体は個人です。国を行為主体としたときには、社会的ジレンマのモデルで分析するのが適切か否かは、直ちには明らかではありません。問題の種類によって、いろいろなケースがあるでしょう。
質問	個人レベルでの効用を環境保護行動を取ったときの方が高くなるようなインセンティブを設ければいいと思うのですが、実施を困難にしている要因などはありますか。
回答	まずは、自分で考えてみましょう。実施を困難にしていることの第一はコストでしょう。たとえば、ガソリン車よりもハイブリッドカーを安くすれば、多くの人ハイブリッドカーを買うでしょう。しかし、ハイブリッドカーは複雑でありレアメタルなども使うので、ガソリン車よりも原価が高くなります。それをガソリン車よりも安く売るためには、補助が必要です。その原資は、誰が負担するのでしょうか。
Ⅵ. スパイクタイヤ問題について	
皆さんの世代の人にとって、スパイクタイヤ問題は、もはや過去の問題なのですね。そうであればこそ、近過去の歴史を良く学んで、これからの環境問題（さらには社会問題）の解決に役立ててください。	
コメント	スパイクタイヤについての講義で、存在を初めて知ることができたし興味をもった。
回答	あなたの身近にも社会的ジレンマはあるでしょう。探してみませんか。
コメント	スパイクタイヤというものを初めてきいたのでとても驚いた。肺の中に金属片が混入してしまうのはとても恐ろしいことだと思った。
回答	世の中には、知らないことがたくさんあります。程度の差こそあるかもしれませんが、私も同様です。
コメント	スパイクタイヤが健康問題につながっていることを知らなかったので驚きました。
回答	30年近く前の問題は、過去の問題になってしまうのだね。記憶を継承するのは難しいことです。3.11以前に、多くの地区に過去の津波についての記念碑が合ったにもかかわらず、ほとんど活かされていませんでした。
コメント	スパイクタイヤについて初めて知ったので驚いた。
回答	上記、(2人前)を見てください。
コメント	親から仙台砂漠について聞いていたので詳しく知れて良かった。
回答	良い家庭ですね。記憶を引き継ぐのは大事なことです。
コメント	水俣から学べることがたくさんあってよかった。
回答	あなたは、それをどのように活かしますか。
質問	人間は基本的に自己利益を最大化させるよう行動を取ります。環境問題に取り組む上で、このような人間で構成されている市民との合意形成を図るのは非常に難しいと思います。合意形成をする上で、何が良い方法・手段はあるのでしょうか。
回答	それが研究です。まずは自分で考えましょう。その上で、上掲の書物などを見てください。
コメント	人々をもっと環境配慮行動をさせるためにはどのような対策をすれば良いと考えていますか？私は環境配慮行動を活性化するために、環境配慮行動を行うことで行った人に利益が出るように付加価値をつけることが良いのではないかと考えます。
回答	たしかに、それは一つの方法ですが、付加価値を付けるための費用をどこから調達するかが問題となります。
コメント	スパイクタイヤに関しては、宮城県とその周辺という比較的小規模なものであったが、地球温暖化は世界規模であり、スピードもゆっくりなため、自分ではあまり実感が湧かないため、人々に行動を起こさせるのが難しいのだと思う。
回答	そのとおりでしょうね。しかし、難しいからといって何もしないわけにはいかない、というのが地球の現実です。
コメント	スパイクタイヤ問題があったのを知らなかった。環境問題について意識を高めるだけでなく、行動に移さなければならぬと思った。
回答	30年近く経つと、あれほど社会的関心を引いた問題も忘れ去られているのですね。3.11の津波でも感じたことですが、災害や環境問題の記憶を受け継ぐのは難しいことですね。
Ⅶ. ごみ問題について	
ごみの排出方法や分別方法は、自治体によって多様です。それは、地域の産業や人々の職業、人口規模、ごみの中間処理施設（焼却場など）や最終処分場の確保可能性など、ごみ処理に関する条件が自治体等にとってさまざま々だからです。仙台市に転入した人は、出身地のやり方と違って戸惑ったかもしれませんが、そのような理由があるのです。しかも、所与の条件を踏まえた時、仙台市の廃棄物処理システムは、一つのモデルなのです。	
コメント	仙台はごみの分別が細かく、ゴミ袋も分けられていますが、慣れてしまえば苦ではありません。ただ、洗っていないトレイをプラスチックに捨てるのか家庭ごみに捨てるのかがよく分からず、その点においては面倒だと思います。
回答	仙台市では、ざっと洗ってプラゴミ袋に入れるよう、指示しています。市民に配布しているハンドブックにも書いてありますし、ウェブ上にもあります。

質問	ゴミの分別などを徹底するためには、具体的にどのように個人に訴えかけていくつもりなのか？
回答	他人に聞く前に、まず、自分ならどうするかを考えてみましょう。その後で、手始めに、仙台市のHPを見て、どのような広報が行われているかを勉強しよう。
質問	ゴミの分別について、私の地元では家庭ゴミの分別に可燃と不燃の区別があったが、仙台市では家庭ゴミとして区別されていなかったの、どのように処理しているのかと思った。
回答	仙台市で出しているパンフレット『保存版 資源とごみの分け方・出し方』には、どのように分別し、出されたごみがどのような処理を経て再商品化されるかが記されています。本来、各世帯に配られているはずですが、区役所でも手に入りますから入手すると良いでしょう。Webでも見られます。
コメント	私も同じようなジレンマを感じていました。究極的には、合理主義と自然主義の対立だと思います。
回答	そのようにいうこともできるけれども、それで分かったつもりにならないことが重要です。そこから、どこに向けて考えを進めますか。
コメント	構造的制御は実行する側にある程度影響力（権力）が必要なように思えるのですが、その立場と個人単位の間で目的が食い違うことは有り得るんじゃないかと思いました。
回答	当然、ありうるでしょう。そのことも含めて制御するのです。
コメント	近所付き合いをする人ほどゴミ出しをする、など、視点がおもしろかった。
回答	この発見をどのように活かしたらよいと思いますが。
コメント	ゴミ出しに限らず、近所の人づき合いが良いほど、マナーを守るのは納得できる。
回答	どのように納得したのですか。
最後に：「教養」なぜ必要なのか	
<p>人間にとって、知らなかったことが分かり出来なかったことが出来るようになることは、それ自体、喜びです。未知を既知にし不可能を可能にする過程は、それ自体が、人にとって喜びなのです。学ぶことは最高の楽しみであり、贅沢な時の過ごし方なのです。</p> <p>しかし、それと同時に、学ぶことには「実用的な」効果があります。大学で学び始めてから間もない皆さんには実感がないかもしれませんが、社会科学の考え方を身に付けるためには、(仮に学問を人文学、自然科学、社会科学に分けるとして)社会科学として提供されている科目だけを学べば良いものではありません。人文学の素養も、自然科学の素養も、いずれも必要なのです。同様に、社会科学以外の専門分野を学ぶ人にとっても、社会科学を学ぶことは必要なのです。なぜなら、皆さんが卒業後に仕事をするとき、その仕事は、ほとんどの場合、他の専門を学んだ人との連携の中で遂行されるのです。そのとき、誰に何を尋ねたら良いのか、ということ「だけ」を考えても、それぞれの分野について概要を知っておくことが必要なのです。</p> <p>もちろん、すべての分野について最先端の知識を身に付けよ、と言っているのはありません。そのようなことは、誰にも不可能です。そうではなく、それぞれの学問の守備範囲や考え方に触れておくことが重要なのです。皆さんが仕事人として活躍するとき、現在の(大学の)専門分野の枠内で仕事をするわけではありません。しかも、専門分野の枠自体が、変化・変動しているのです。そのような中で、自分と異なった専門分野の人との対話(たんなるおしゃべりではなく、相互啓発や相互援助)を可能にするためには、他の専門領域についての基本的素養が必要なのです。</p>	